

京都大学若手人材海外派遣事業 スーパージョン万プログラム  
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成26年10月30日

1. 渡航者

氏名	平川 佳世	採択年度	平成25年度
部局	文学研究科	電話	
職名	准教授	メール	
研究課題名	16世紀前半のドイツにおける多様な絵画形態の先駆的試みに関する歴史的研究		
海外渡航期間	平成26年3月30日～平成26年9月30日		

2. 渡航に関する情報

渡航先	国名：ドイツ 大学等研究機関名：トリーア大学 研究室名等：第3学部美術史学科 受入研究者名：アンドレアス・タツケ教授
渡航期間中の出張 (渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。) ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。	出張先：アムステルダム、レイデン、アルクマール 目的：上記研究課題に関連して、アムステルダム国立美術館、レイデン市立博物館他での16世紀北方ヨーロッパ絵画に関する調査 期間：平成26年4月10日～平成26年4月14日  出張先：パリ、リモージュ、マルセイユ他 目的：上記研究課題に関連して、トリーア大学・ソルボンヌ大学主催の国際シンポジウム <i>Civic Artists and Court Artists</i> への参加、およびリモージュ美術館、地中海考古学博物館他での中近世ヨーロッパの特殊素材絵画に関する調査 期間：平成26年6月18日～平成26年6月29日  出張先：ルードヴィヒスハーフェン、コンスタンツ 目的：上記研究課題に関連して、トリーア大学・シュトゥットガルト造形大学合同研究会での研究発表、およびメーアスブルク絵画館他での近世北方ヨーロッパ絵画に関する調査 期間：平成26年7月9日～平成26年7月14日  出張先：パリ、ストラスブール、カールスルーエ他 目的：上記研究課題に関連して、ルーヴル美術館、ストラスブール大聖堂付属美術館他での中近世ヨーロッパの特殊素材絵画に関する調査 期間：平成26年8月8日～平成26年8月16日

### 3. ジョン万プログラムによる成果

以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。ページ数については増加してもかまいません。

<p>国際共著論文の執筆  (論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)</p>	<p>美術史学という学問領域においては共著での論文や書籍執筆の慣例は乏しく、また、研究の性質に共著という執筆形態はそぐわないため、それにかわるものとして、渡航者は受入研究者を含む国内外の北方ヨーロッパ美術史研究者計7名による、国際コロッキウム <i>Kyoto Art History Colloquium: Sacred and Profane in Early Modern Art</i> を主催し（平成26年10月4日、京都大学文学研究科）、在外研究の成果の一部を公表するとともに（Kayo Hirakawa, “The Man of Sorrows in the Staatliche Kunsthalle Karlsruhe: A Reconsideration of Dürer’s Gold-Ground Painting”）、研究の精度をより高めるべく研究者間で積極的な意見交換を行った。2015年6月には、本コロッキウムの成果を論文集 <i>Sacred and Profane in Early Modern Art: Proceedings of Kyoto Art History Colloquium, held at the Graduate School of Letters, Kyoto University, October 4, 2014</i> として刊行する。</p>
<p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施  (国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p>	<p>上述のように、渡航者はすでに、受入研究者を含む国内外の北方ヨーロッパ美術研究者が最新の研究成果を報告し意見交換を行う国際コロッキウムを開催し、成果を論文集として刊行する。今後は、京都大学を北方ヨーロッパ美術研究のアジア拠点とすべく、本在外研究で構築した人的ネットワークを活用して <i>Kyoto Art History Colloquium</i> を毎年開催する計画である。加えて、渡航者の所属する文学研究科美術史学研究室ではシュトゥットガルト造形大学ニルス・ビュットナー教授の協力のもと、日本国内の若手研究者およびドイツ語圏の若手研究者が参加する <i>The International Workshop for Young Researchers: Aspects of Narrative in Art History</i> を昨年度行った。一方、本在外研究の受入機関であるトリーア大学とシュトゥットガルト造形大学は合同セミナーを開催するなどすでに学术交流を進めており、今後は次世代研究者育成の観点から、両研究室を含む国外研究機関との交流をさらに深化させる所存である。以上の国際交流に関しては、今後、京都大学学内の競争的資金獲得に加え、適切な外部資金の選定と活用の可能性を意欲的に検討する。</p>
<p>国際研究ネットワークの新規構築／深化  (参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築／深化した研究ネットワークの内容等)</p>	<p>本在外研究では、研究課題に真摯に取り組む一方、シンポジウムや研究会にできる限り参加し、各国の研究者との交流を積極的に行った。主たる参加シンポジウム等は以下のとおりである。 § <i>Aspekte des Erzählens in Kunst und Kunstgeschichte</i>, Reinwaldhaus, Ludwigshafen-Bodman, 11. July, 2014: シュトゥットガルト造形大学ニルス・ビュットナー教授が主催した、同教授の研究室と本在外研究の受入研究者であるトリーア大学アンドレアス・タッケ教授研究室の合同セミナー。ドイツ語圏の諸大学より北方ヨーロッパ絵画を専門とする若手研究者が参加。渡航者も研究課題に関連する約30分の口頭発表を行い（Kayo Hirakawa, “Die Erfindung der Ölgemälde auf der Kupferplatte im sechzehnten Jahrhundert in Hinsicht auf den kulturellen Austausch zwischen Italien und Niederlanden”）、参加者から有益な所見を得た。 § <i>Civic Artists &amp; Court Artists, 1300–1600</i>, INHA, Centre André Chastel, Paris, 19-21 June, 2014: トリーア大学とソルボンヌ大学主催の国際シンポジウム。ヨーロッパ各国およびアメリカから参加した研究者と意見交換を行い、今後、京都大学での国際シンポジウム開催についての可能性を探った。</p>

<p>在外研究経験による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た研究の展開方法、研究室の運営方法、教育方針・人材育成方法等)</p>	<p>本在外研究の受入研究者アンドレアス・タツケ博士は、渡航者が専門とする16世紀北方ヨーロッパ美術史、なかでも、ルーカス・クラナハ研究の第一人者であるが、2005年に同博士を正教授に招聘して以降、トリーア大学は外部資金の活用と国際学術交流を積極的に推進するタツケ教授のリーダーシップのもと、ミュンヘン大学やベルリン自由大学などの伝統校を凌ぐ、北方ヨーロッパ美術研究の拠点として急成長を遂げており、本校の斬新な研究組織の運営方法を実地で学ぶことは、渡航者の研究滞在のもう一つの主要目的であった。本校では、近世北方ヨーロッパにおける芸術家の活動を社会史的な観点から分析する <i>The Social History of the Artist Research Center</i> を外部資金のもとに設立し、優秀な若手研究者を研究員として雇用しその研究活動を支援することに加え、月1回、本研究領域に関連する学外研究者を招いての研究会を開催する一方、年1回程度他大学と共同で国際シンポジウムを主催するなどドイツ内外の研究機関との連携を積極的に推進している。こうした研究組織の運営方法を実地で体験したことは、今後の渡航者の研究室運営に大いに参考になった。中でも注目に値するのが、当センターでは、シンポジウム開催等に関する事務的な作業を行う専門の学術コーディネーターを雇用している点である。このコーディネーターの存在が旺盛な組織的研究活動を可能にしているといえ、研究組織を国際的に発展させる上での事務組織充実の重要性を改めて実感した。</p>
<p>フィールド研究の進展</p> <p>(渡航先国で実施した実地調査や文献調査等の内容)</p>	<p>本在外研究では、ドイツ西部の、ルクセンブルクとの国境沿いに位置するトリーアという町の地の利を十分に活用し、ドイツ、ルクセンブルク、フランス、オランダの各美術館・博物館において、研究課題に関連して、15, 16世紀の北方ヨーロッパ絵画および西洋の特殊素材絵画全般に加え、中近世の金銀細工、金属製品、七宝焼製品について、作品の実見調査およびデータ収集を精力的に行い、今後の研究の進展に有益な多くのデータを得た。主たる調査先は以下のとおりである。</p> <p>[ドイツ] トリーア市立博物館、トリーア大聖堂付属博物館、トリーア大聖堂宝物館、シュニェットゲン美術館、クストハレ美術館</p> <p>[ルクセンブルク] ルクセンブルク国立歴史・美術博物館</p> <p>[フランス] ルーヴル美術館、国立中世美術館、リモージュ美術館、クール・ドール美術館、ウンターリンデン美術館、ストラスブール大聖堂美術館</p> <p>[オランダ] アムステルダム国立美術館、アムステルダム博物館、アルクマール市立博物館、レイデン市立博物館</p>